

越後日光開山堂

開山堂の向拝及び室内には、幕末の名匠石川雲蝶の終生の大作ともいえる、素晴らしい彫刻、絵画、漆喰細工の数々が施されています。西福寺の開山堂は、その雲蝶の作品群が日光東照宮にも劣らない素晴らしいものであることから、またの名を越後日光開山堂と呼ばれるようになりました。

これらの彫刻は開祖道元禪師を題材にしたものが多く、開山堂をお参りし、彫刻等を観ていると、高僧道元様がすぐ傍らで語りかけてくださるような清々しさを感じます。

開山堂天井の大彫刻『道元禪師猛虎調伏の図』

開山堂の三間四方の吊り天井に、透かし彫りで施された大彫刻は、雲蝶終生の大作ともいえる作品です。そして、その迫力ある彫刻が岩絵の具で色鮮やかに塗り上げられ、安政年間の華やかさをそのままに伝えています。

(上) 欄間透かし彫り「道元禪師と白山大権現」

(下) 法堂脇の襖絵「孔雀遊戯之図」

(左) 鬼退治の仁王像 高さ2メートル余りのケヤキ一本彫